



名望家からみる明治の社会



有馬郡會議員
有井幸悦君

有馬郡長尾村ノ内宅原村

二九

村組長兼管理者となり同年三月有馬郡農會議員となり七月加茂學校新築委員兼監督委員となり、三十六年一月野々倉銀行監査役となり同年四月加茂尋常高等小學校新築落成式は村長欠員のため助役を以て代理履行せり、同年五月舉げられて中野村長となり三十八年一月同村學務委員となり同月三田同盟銀行監査役當選、四十年七月同村青野小學校改築委員兼監督となり同年九月郡會議員に舉げられ四十一年一月三輪貯金銀行三田同盟銀行三田銀行の各取締役となり、三田共有銀行三田常陸銀行の各監査役に舉げられたが同年八月三田同盟銀行解散に當り其清算に關係を辭る。

算人となり現今は三輪貯金銀行清算人及び野々倉銀行取締役たる外一切の職務を辭して閑地にあり、君は資性温厚の中に霸氣を有し、頭腦明晰にして頗る嘉財の途に長ち、然して謙遜遠慮に富み、人に接する圓満にして寛容、毫も隔壁を設けず親切にして克く和合を維持するの雅量あり、之れ同村に於ける重鎮として將た銀行界の霸者として名聲を博したる所以にて、今や名遂げ業なりて閑地に風月を友とし樂しき余命を養へり、君の如きは在郷者中稀に見るの成功者にして後世青年の模範と稱すべきなり、幸に鶴壽を祈る。



中野村の成功者
羽路幸右衛門君

有馬郡中野村ノ内末村

かゝる人物にて郡會とも役員は古參を以て糾纏するが殆ど例となるにも拘らず、氏は郡會に頭を容るや直に參事會に就き得たるは其手腕卓越を證するものなり、然るに一期にして今や閑地の人となる。

の海に根びべきなり、されど年齒尙壯なり實際の手腕を發揮するは今日以後の事に屬し、過去は其試金石に過ぎざるなり、幸に自重修養を以て權土衆重を期せ。

氏は安政二年十一月九日生、幼名を淺吉と稱す、羽路家は代々農を業とし明治十七年三月氏が家督相続の時は田地一町一反三畝歩を有せしも、現在の所有田は十一町四反六畝歩にて稅務署決定の所得高貳千四百拾七圓なり、之れ氏が一代に築きたる所得にて類ひ稀れる成功と稱すべきなり、此間亦氏が公共事業の爲に貢獻したる事績は偉大なるものあり

明治二十年十二月末村組長兼加茂村外七ヶ村會議員となり、二十五年四月中野村會議員となり同年九月衛生組合長に舉げられ、二十六年九月有馬郡十四ヶ町村高等學校組合會議員二十七年五月有馬郡各町村組合會議員となり、三十一年一月中野村助役に舉げられ三十四年四月村會議員再選、三十五年一月助役滿期再選、同月三田實業銀行監査役となり、同月末

『現代有馬郡人物史』(三丹新報社、1917年)28~29頁

名望家とは、一定の地域の中で経済力に加え、家柄・指導力などによって、地域行政に携わったり、会社を経営したり、議員になるなどして地域住民から名望を得ていた人のことをいいます。近代日本の歴史を考えると、実は名望家はとても重要な意味を持っていました。あまり知られていない名望家ですが、そこから日本の近代史の一側面をみてみましょう。

早稲田大学 教育・総合科学学術院 教授

講師 三村 昌司氏

10月8日(木) オープンセミナースペース
18:30-19:30